

# 建築専門誌における東日本大震災関連の言説にみる建築家の社会的役割

## Social Role of Architects after Great East Japan Earthquake through Articles in Architectural Magazines

奥山研究室 10M30170 田中 浩介 (TANAKA, Kosuke)

Keywords：東日本大震災 現代日本の建築家 社会的役割

Great East Japan Earthquake, contemporary japanese architects, social role

### 1. 序

1-1. 研究の背景と目的 東日本大震災以後、被災した建物の復旧や今後の都市計画の策定など様々な対応が建築分野に対する社会的要請として浮上し、建築専門誌は、これらの題材を特集として取り上げた。こうした特集上の論説では、今後の建築・都市のあり方が模索されるとともに、建築家<sup>1)</sup>の社会に対する姿勢についても言及された。震災という有事の状況においては、建築家の社会的意識が平時より顕著に表出すると考えることができる。そこで本研究では、建築専門誌において震災後一年以内に掲載された東日本大震災関連の言説を題材とし、そこで言及される復興に対する今後の方策を検討することで、震災後の状況によって顕在化した建築家の社会的役割に関する思考の一端を明らかにすることを目的とする。

1-2. 資料対象 東日本大震災（以下、東日本）以後、建築専門誌<sup>2)</sup>、書籍、シンポジウム、展覧会といった建築メディア<sup>3)</sup>によって、様々な特集・企画が生まれ、そのなかで建築家も論説、意見を発表した（図1）。こうした震災後の動向と1995

年の阪神・淡路大震災（以下、阪神）後の動向を比較すると、東日本後の特集・企画の数がより多く、特に建築専門誌における建築家による言説の数が顕著に多いことが分かる（図2）。そこで本研究では、特集の主旨・企画の意図が明確に読み取れ、それらに付随して建築家の言説が多く抽出できる建築専門誌を資料とし、2章で特集の内容、3章でそれらに付随する建築家の言説の内容を検討し、それぞれ阪神との比較を行う。

### 2. 建築専門誌における東日本大震災関連の特集内容

2-1. 建築専門誌における特集主旨にみる特集内容 建築専門誌における特集内容<sup>4)</sup>を特集主旨の記述から抽出し、相互に比較、分類した（図3）。その結果、特集内容は【意見集約】【構造技術】【まちづくり】【社会システム】【環境エネルギー】の5つのまとまりに分類できた。【意見集約】は、建築家の寄稿文の収集、建築団体の活動報告があり、建築関係者個々の意見に重点を置くものである。【構造技術】は、耐震技術に関する解説など建築分野における技術的側面の対策を追求するものである。【まちづくり】は、拠点施設による地域再



図1 分析例

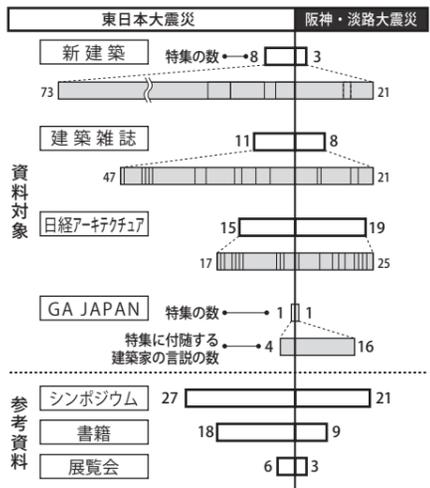


図2 建築メディアの動向

生への取組みの紹介や被災者のコミュニティに関する議論などまちづくりに関する動向に注目するものである。【社会システム】は、社会構造に関する分野を横断した議論や、情報メディアなどの建築を取り巻くシステムの課題といった社会総体に関する問題を検証するものである。【環境エネルギー】は、エネルギー問題に起因する建築分野が取り組むべき課題に焦点を当てたものである。

2-2. 阪神・淡路大震災との比較 東日本と阪神の特集内容では枠組みを共有する内容（共有）とそれぞれの震災で異なる独自の内容（独自）がみられた。特集内容のまとめりに検討したところ、【意見集約】に関しては、阪神の「独自」において、建築デザインに関する議論がみられ、【構造技術】に関しては、他のまとめりと比較して「独自」の内容が多く、それぞれの震災の性質・被害との直截的な関係を示した。【まちづくり】に関しては、議論された内容の枠組みはそれぞれの震災で近似しているものの、東日本の「共有」において、被災者生活に関して、より具体的施策を議論する内容がみられた。【社会システム】に関しては、東日本の「独自」において社会再建に関する話題がみられた。



図3 建築専門誌における東日本大震災関連の特集内容の分類

2-3. 特集内容と雑誌別の関係 特集内容と雑誌別の関係を検討する（図4）。「新建築」は東日本、阪神の両方で「独自」がみられず、「建築雑誌」は東日本において、阪神より「独自」が多くみられた。このことは、主に建築家をフォーカスする「新建築」は、阪神と同様の枠組みの中で考察を深め、学術的な議論を展開する「建築雑誌」は、既存の枠組みにとらわれず新しい題材に注目していると考えられる。

3. 東日本大震災関連の言説にみる建築家の方策 資料からは、それぞれの特集主旨に沿って、建築家は今後どうすべきかという方策についての主張が見出せる。本章ではこれを建築家の方策<sup>5)</sup>として検討する。

3-1. 被災地に対する建築家の姿勢 建築家の方策からは、被災地とどう向き合うかという建築家の姿勢が読み取れる（図5, 6）。資料ごとに相互に比較し、被災地に立脚し積極的な社会参画を実践する《支援活動への直接的な参加》、被災地に対して俯瞰的に提言を述べる《震災を間接的に意識》、震災と建築家自身の思考とは関連しないと主張する《震災とは無関係》の3つに分類した（以下、《直接》《間接》《無関係》と示す）。《直接》には、地域住民との関係を立脚点とする〈住民協働〉、

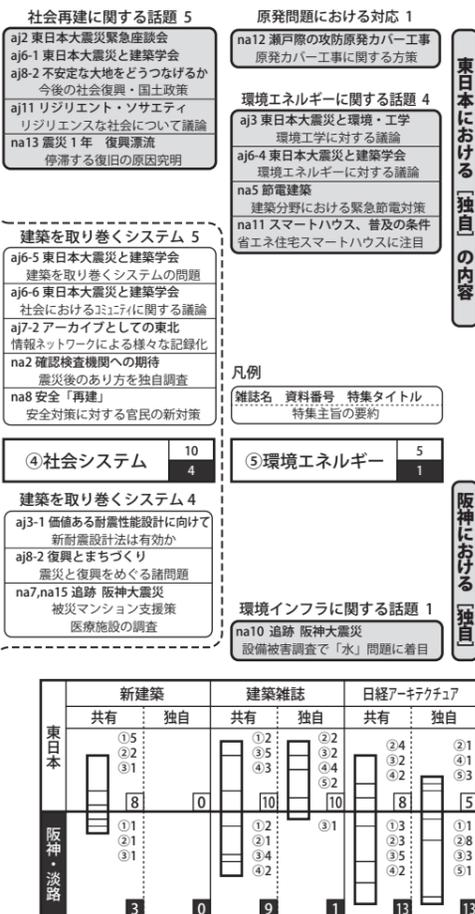


図4 特集内容と雑誌別の関係

他分野との専門家との対話を重視する〈専門連携〉が含まれ、《間接》には、俯瞰的に解決策を構想する姿勢を示す〈構想〉、震災を意識するが建築家の役割は未だないとする姿勢を示す〈待機〉が含まれる。

3-2. 震災を契機とした建築家の価値観の変革 建築家の方策における多くの言説からは、震災後の社会変化を受けて、建築家にどのような意識の変化があったかという価値観の変革が読み取れる。建築家自身の思想の変革を主張する建築家の意識の変革、社会における問題点を指摘し改革を促す社会状況の変革、価値観の変革を言説中から読み取れないものを変革なしとした(図7)。

3-3. 建築家の姿勢と価値観の変革との対応関係 建築家の姿勢と価値観の変革との対応関係を、東日本と阪神との比較のなかで検討する。建築家の姿勢の内訳に価値観の変革の分布を示したものが図8である。東日本では、阪神と比較して《直接》と《無関係》が多い。このことにより、東日本において、多くの建築家が被災地支援に対して積極的に参画した一方で、一部の建築家は、それに反撥する姿勢をとったことがわかる。また、《直接》に含まれる〈専門連携〉について、東日本で多くみられ、このことは、建築家の支援活動の取組み方に変化が生じていると考えられる。次に価値観の変革の分布についてみ

ていく。東日本全体では、阪神全体と比較して社会状況の変革が多くみられ、特に《間接》において顕著である。このことは、被災地と距離を保ち社会に対して立脚する場合、建築家の問題としてではなく社会的問題を意識したという東日本大震災の被害状況による建築家の心理状況を示している。

4. 東日本大震災関連の言説にみる建築家の社会的役割 2章で検討した建築専門誌における特集内容と、3章で検討した建築家の言説の対応関係について、阪神と比較しながら総合的に検討していく。特集内容のまとめりに建築家の姿勢と価値観の分布を内訳に示したものが図9である。

まず資料全体について特集内容における〔共有〕、〔独自〕の内容と建築家の姿勢の関係について検討する。東日本では〔共有〕において《直接》が多く、〔独自〕において《間接》が多くみられた。このことは、東日本において建築家は、阪神での教訓が反映された枠組みに関しては、具体的行動に奔走した一方で、東日本で新たに顕在化した課題に関しては、慎重に思索することに留まっていたことを示している。次に、特集内容ごとに該当する建築家の言説の数をみていくと、東日本、阪神両震災において、【意見集約】と【まちづくり】に建築家の言説は集中し、東日本において顕著である。(それぞれ67/9特集、34/9特集)。このことは、建築家の社会的役割について、意

sk201112 no.066 建築家として何が可能か？ 伊東豊雄 …われわれは設計者でありながら住民であり、住民もまた住民でありながらつくる人たり得た。…みんなの家はどのように今後の復興に寄与し得るのか、そしてまた…建築家の社会意識をどのように変え得るのか、正念場はこれからである。	3-1 建築家の姿勢 《支援活動に直接的参加》 〈住民協働〉 3-2 価値観の変革 建築家の意識の変革
---	---

図5 建築家の方策に関する分析例

支援活動への直接的な参加 《住民協働》 住民 建築家 □41 ■15	支援活動に参加し地域住民との協働を図る姿勢を示すもの	no.023 木村博昭…しかし、目前の被災者支援も急れない。どちらかと言えば、応急的な行為が、人びとに将来の希望を与え、そこにつくめるものに対する信頼性と社会責任がある
《専門連携》 専門家 建築家 □32 ■10	地域間の連携や分野間の関係を積極的に図る姿勢を示すもの	no.004 阿部仁史 …建築家・建築関係者が、復興支援のネットワーク「アーキエイド」を構築し、今後被災地復興に連携して協力しようとしている…
《構想》 解決策 □39 ■37	震災を受け俯瞰的に解決策を構想する姿勢を示すもの	no.061 宮本佳明 …これから被災地に建ち上がるより強固な防潮堤も大きな風景の一部として取り込むことができないのか。まずは私たち「建築家」が美しい土木で応えることが必要なのではないか…
《待機》 役目はまだ □21 ■20	震災を意識するが建築家としての役割はまだだと待機する姿勢を示すもの	no.040 内藤麻 復興に向けて巨大な社会装置が動き出している。建築はその蚊帳の外に置かれている。…建築家は、いずれ大きな役割を果たさざるを得ないだろう。出番はもう少し先のことだ…
《無関係》 □8 ■1	震災とは距離をとり、建築家自身の設計活動を継続する姿勢を示すもの	no.015 石上純也…ぼくは建築の抽象性に強く惹かれていた。…この期に及んで、何かを取り扱うなど、悠長なことをしている場合ではないのかもかもしれない。…それでも、ぼくはその中の抽象性に着目したい。

図6 被災地に対する建築家の姿勢 □東日本の数 ■阪神の数

建築家の意識の変革 □50■28	社会状況の変革 □52■19	変革なし □39■36
建築家の意識の変革 建築家の意識の変革 □8 ■2 建築家の職能の転換 □13 ■1 建築と都市の関係の変革 □13 ■17 建築と人との関わりの変化 □12 ■6 建築と自然とのあり方の変化 □4 ■2	社会状況の変革 エネルギー政策の転換 □5 津波対策の見直し □6 社会構造の変革 □19 ■8 復興関連の制度の改革 □16 ■5 技術的側面の見直し □4 ■9 防災のあり方の再考 □2 ■1	言説の中で価値観の変革に対する思考が読み取れないもの
no.036 千葉学 …私有化を前提にした社会で空間の実験を繰り返す、そんな古くさい建築家像は、もう脱却しようではないか。	no.053 藤村龍至 …横断的に議論することで、未曾有の超高齢化社会をどう経営し、「新たな日本」をどのように実現していくのか、イメージしていく必要を感じている	

図7 震災を契機とした建築家の価値観の変革 □東日本の数 ■阪神の数

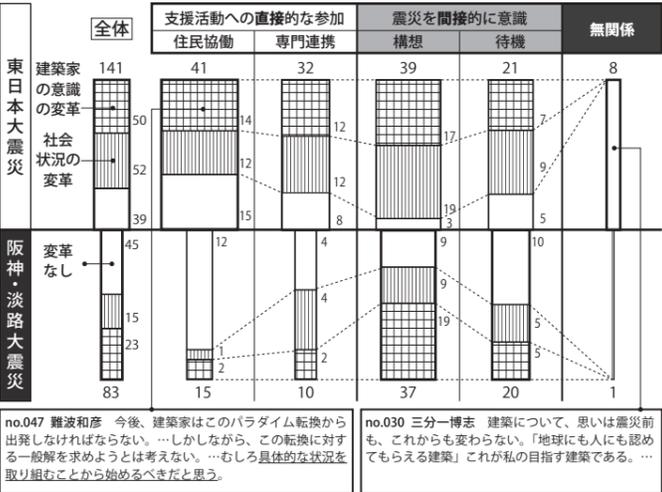


図8 建築家の姿勢と価値観の変革との対応関係

見を発信する論者としての役割と、まちづくりにおいてその職能を活かすことに注目が集まっていることを示している。さらに、特集内容ごとに建築家の姿勢の対応をみていくと、【まちづくり】に関しては、《直接》が多くみられ、特に東日本において顕著である。このことは、建築家は、阪神においては、まちづくりに関して構想段階であったのに対し、東日本においては、住民の意見を取りまとめ、地域間のネットワークを形成するといった、社会における様々な条件を統合する役割を実践していると考えられる。価値観の変革の分布を検討すると、社会状況の変革が多くみられ、このことは、まちづくりに参画することによって社会をも変化させる可能性を建築家は思考していると考えられる。【意見集約】に関しては、全体と比較して《間接》が多くみられ、東日本と阪神とで姿勢の分布に大きな変化はみられない。このことは、建築家の率直な意見を求められた特集においては、直接的な被害状況とは距離を図り、自身の設計姿勢を貫くといった、時代によらず普遍的な建築家の姿勢が表出しているものと考えられる。【社会システム】に関しては、《間接》が多く、建築家の意識の変革が比較的多くみられた。このことは、社会の構造的な問題に関して具体的対策を提出しにくい状況においても、建築家としての問題意識をもって社会に対峙する建築家の姿勢を示している。

5. 結 以上、本研究では、建築専門誌における東日本大震災関連の特集内容及び、特集に付随する建築家の言説における震災に対する建築家の方策を整理し、それらを阪神・淡路大震災と比較することから、東日本大震災後の状況における建築家の社会的役割に関する思考について検討した。その結果、東日本大震災以後、建築家に対する社会的要請が高まったまちづくりに関する題材においては、阪神・淡路大震災での構想を生かし、具体的に被災地において他者との協働を実践をする一方で、建築家の率直な意見を反映した特集においては、被災地状況や社会的変化によらない普遍的な建築家の在り方を維持する、建築家の社会に対する異なる姿勢を見出した。

- 註1) ここでいう建築家とは、主に建築作品あるいは建築論をジャーナリズムに発表することによって、建築の表現活動をしている人物とする。  
2) ここでは、新建築、建築雑誌、日経アーキテクチャ及びGA JAPANを建築専門誌とし、震災以後1年以内に掲載された東日本震災に関連する特集と建築家による言説を資料対象とする。阪神・淡路大震災に関してと同様とする。  
3) ここでは、書籍、シンポジウム、展覧会を建築メディアとし、図3での数は註2で示した建築専門誌に掲載された数とする。  
4) 特集主旨の記述からは、複数の特集内容が抽出できる場合がある。東日本において44/35特集、阪神において39/31特集の特集内容を抽出した。  
5) ここでは、東日本大震災において141、阪神・淡路大震災において83の論説から、建築家の方策を抽出した。

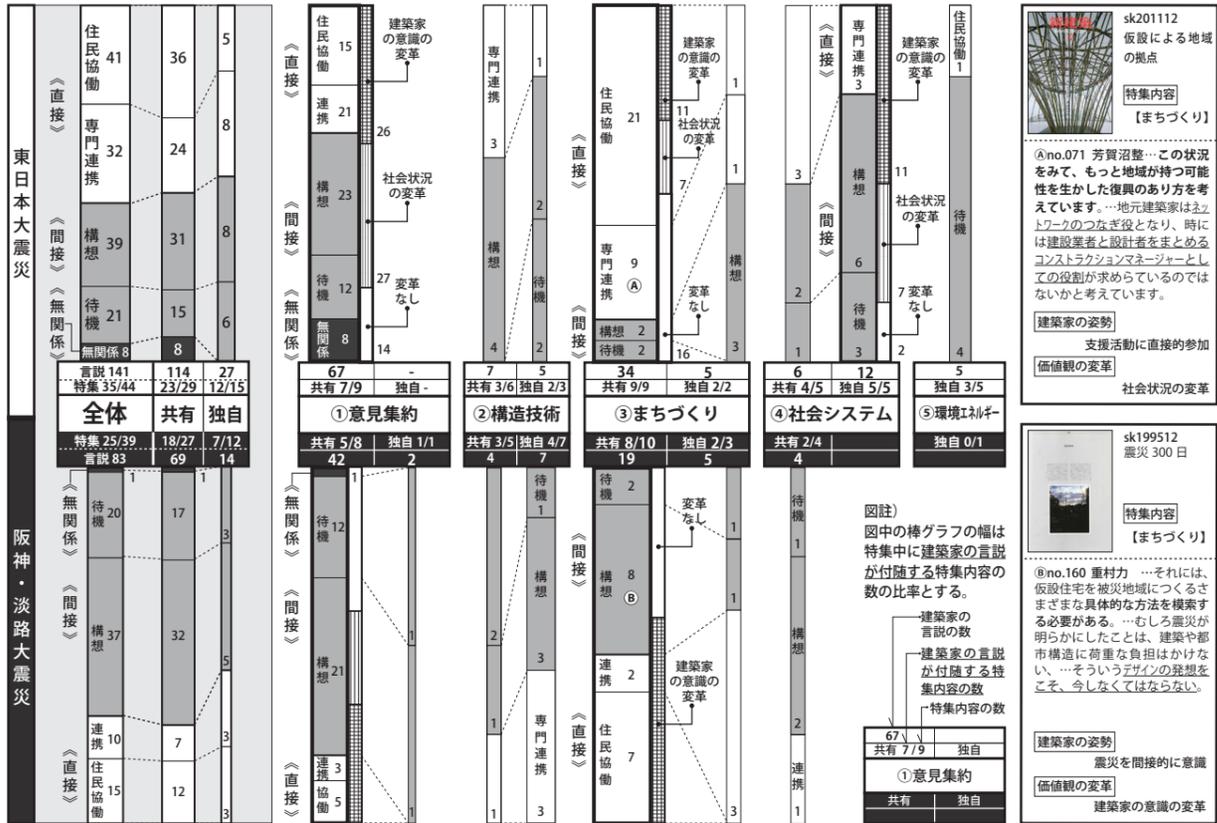


図9 東日本大震災関連の言説にみる建築家の社会的役割